

2022 年 5 月 20 日

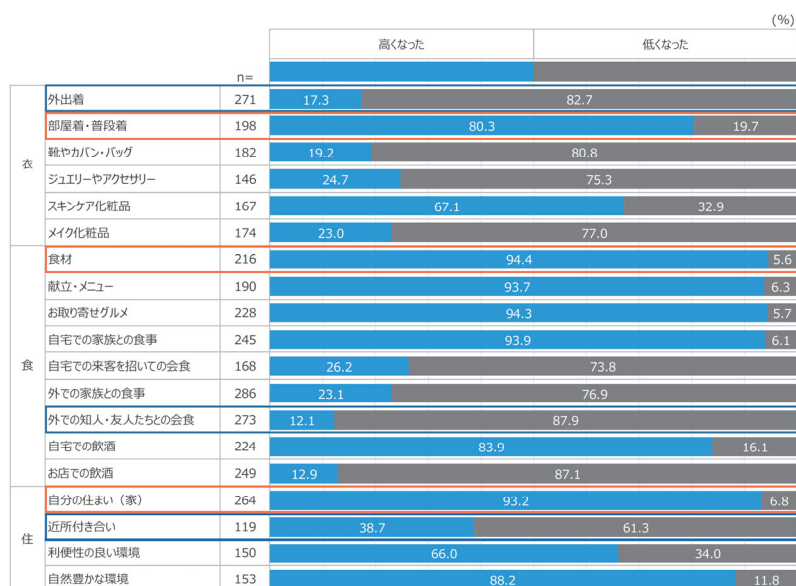
コロナ禍を通じた意識変化、および罹患したご家族対象の住まいの課題を調査

調査レポート「これからの時代に求められる住まいのあり方」を発表

- with コロナ、after コロナに求められる住まいや子育ての環境を考える目的で 2 つの調査を実施
- 自宅生活の充実や感染症対策に関するニーズの増加など、暮らしの豊かさ、安全性への関心の高まりが顕在化
- 2012 年に発表した、子どもの成長段階に合わせた空間デザイン「ホームコモンズ設計」を一新



調査レポート表紙



例：「衣食住の関心度の変化」では自宅を中心とした生活を豊かにするものへの関心大

ミサワホームグループのシンクタンクである株式会社ミサワホーム総合研究所（本社 東京都杉並区／代表取締役社長 千原勝幸）は、with コロナ、after コロナに求められる住まいや子育ての環境を考える目的で、コロナ禍を通じて生活者に起こった意識変化、および感染症に罹患した家族が感じた住まいの困りごとについて調査を実施。2 つの調査結果とあわせて、次世代を育てる住まいの提案について、「これからの時代に求められる住まいのあり方」としてまとめたので報告します。

次世代を育てる住まいの提案については、ミサワホームが 2012 年に発表した、子どもの成長段階に合わせた空間デザイン「ホームコモンズ設計」をもとに、これまでの 10 年間での子育て世帯の変化や、コロナ禍を通じた生活変容を踏まえて、新しい切り口を充実させた「ホームコモンズ設計 2.0」として一新しています。

■ 調査レポート「これからの時代に求められる住まいのあり方」の概要

- ・生活意識の変化 家で過ごす時間の増加に伴い、衣食住すべてで家の中での暮らしを充実させる傾向が強まる
- ・住まいの課題 罹患した家族の多くが、感染症を不安視 換気や除菌など感染症対策のニーズが高まる
- ・住まいのあり方 空間を多用途で使い分けことがポイント 子ども中心ではなく家族全員が主役の住まいに

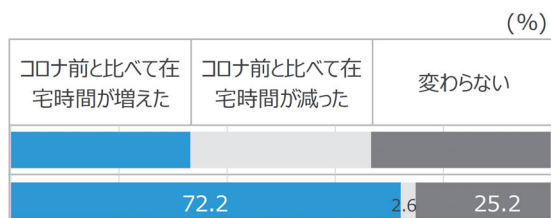
調査レポートはこちら：https://www.misawa.co.jp/corporate/news_release/2022/0520/report.pdf

<実施した調査と主なトピックス>

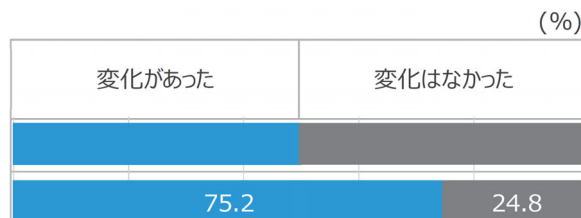
■コロナ禍を通じた生活者の意識変化調査 (n=773)

今後2年以内に戸建住宅の購入を検討されている年収400万円以上の方を対象に、
2021年3月31日～4月8日の期間でWebアンケート調査を実施

- ・72%の方が「在宅時間が増えた」と回答、「生活の価値観に変化があった」と回答した割合は75%
- ・衣食住の関心度は、部屋着・普段着が8割で高まる一方、外出着は8割で低下するなど、イエナカの関心が増加
- ・ライフスタイルでコロナ後に重視するよう変化、上位に在宅ワークの時間が23%、心・身体の健康が20%・19%



図：在宅時間の変化 (n=773)

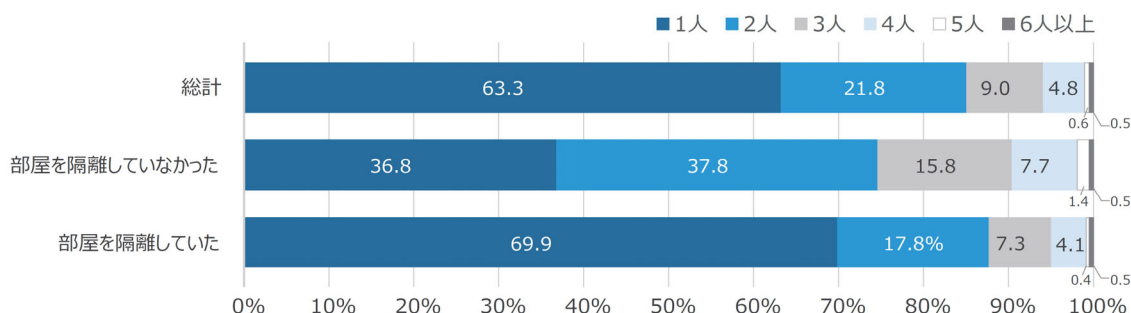


図：生活価値観の変化 (n=773)

■家族が新型コロナウイルスに罹患して自宅療養を行った方に対する、住まいの困りごと調査 (n=1040)

新型コロナウイルスにご自身または家族が罹患し、自宅療養の際に他の家族と同居された方を対象に、
2021年11月30日～12月4日の期間でWebアンケート調査を実施

- ・家庭内の感染者数は、部屋を隔離していた場合と隔離していない（できない）場合とで、分布に差が見られた
- ・感染時の困りごととは、自身が罹患した場合と家族の場合とで違いはあるものの、上位3項目は食事、トイレ、入浴
- ・罹患後、65%の方の行動に変化があり、変化のあった生活シーンの上位は買い物25%、帰宅時24%と続く



図：家庭内の感染者数の分布 (n=1040)

<子育て世帯の変化や生活変容、調査結果などを踏まえた「ホームコモンズ設計 2.0」のポイント>

- ・子ども中心の住まいから、家族全員を大切に考え、ストレスなく過ごせる住まいにシフト
- ・状況やライフステージの変化に合わせて、これまで用途を決めて使用していた空間を多用途に活用
- ・同様に、勉強や仕事などこれまで場所を決めて行っていた活動は、状況にあわせてさまざまな場所で行うように提案

ミサワホームは、創業時より「住まいは巢まい」という理念のもと、子育てにおいて「家でできること」を真摯に考えながら住まいづくりに取り組んでいます。そのような中、仕事や勉強、趣味などさまざまな活動を家で行うようになり、家で過ごす時間が増加するなど、暮らしは変化しています。2020年6月に実施した調査、および当調査で得られたコロナ禍を通じた意識変化に関する知見を生かし、これからもより良い子育て環境を大切に考えながら、家族全員が主役になり、心身ともに健康で豊かに暮らすことのできる住まいを提案していきます。

以上

* この件に関する問い合わせ先 *

ミサワホーム(株) 管理本部 広報・渉外部 コーポレートコミュニケーション課 阿部正成 麻生和広
TEL : 03-3349-8088 / FAX : 03-5381-7838 / E-mail : koho@home.misawa.co.jp

<参考>

■ 2020 年 6 月に実施・発表した調査「新型コロナウイルス影響下における住まいの意識調査レポート」

https://www.misawa.co.jp/corporate/news_release/2020/0630_2/report.pdf

■ 「ホームコモンズ設計」とは

ミサワホームは子どもの勉強する場所や子ども部屋の考え方について整理し、2012 年に「ホームコモンズ設計」として発表。「ホームコモンズ設計」では、子どもの成長段階に合わせ、4 つのステップで学びの空間をデザインしています。

・エムレポ Vo.88 学びの環境①住まいの学習空間の変化 ～勉強部屋からホームコモンズへ～

<https://soken.misawa.co.jp/news/20200417/1437/36/>

■ アップデートした「ホームコモンズ設計 2.0」、子どもの成長段階に合わせた 4 つのステップ

子どもの成長段階 (子どもに必要なkeyword)	育みたい能力	対話による学び成長	家族の課題	住まいの課題	学び・働く場のプランニング に大切なポイント
信頼関係 親子の信頼関係を確立する時期 	経験から五感を育む - 視覚力（反応力） - 基礎身体能力 - 信頼する力	直接的（近い） ←→ 間接的（遠い） ふれあう ほめる／しかる 見て、見られて 安心感を与える	- 生活リズムの変化への対応 - ワークスタイルの変更、調整 - 家事／育児時間の増加による負担増 - 親自身の時間の縮小	【共通課題】 - 帰宅時に除菌・手洗いしやすい間取り - 空気の衛生を保つ換気や空気清浄 - 仕事ができる場所 - 罹患時に隔離できる部屋 - 作業しやすいデスク環境 - 良好なICT環境 - 事故や怪我などが心配 - 泣き声などがダイレクトに入ってきてしまう - 底めたり触ったりしてしまう	リビングなど - 親が手に対して手が届きやすい距離感 - 家族のみんなが集まり対話をしやすい場所 - どこからでも見やすく死角がない安全性を確保できる場所 ダイニング、キッチン、個室空間など - 隙間時間に単独作業できる空間 - 寝ている子を起こさないように会話の音を遮断できる可変性（気配、音） ファニチャー - 子どもに間違っていじられない管理できる収納 - 乳児期に必要な可動式の育児用具収納
自立心、積極性、羞恥感克服 人前の基礎が形成される時期 	体験から想像力と 語る力を伸ばす - 好奇心 - 想像力 - 会話意欲 - 生活習慣の習得	直接的（近い） ←→ 間接的（遠い） チャレンジ 会話を楽しむ 見守る	- 第一反抗期との向き合い方 - 子どもを媒介とするコミュニティーへの参画 - 夫婦の養育観の相違等による磨き合せ - 衛生習慣の習得 - 通園による生活習慣の形成	【共通課題】 - 帰宅時に除菌・手洗いしやすい間取り - 空気の衛生を保つ換気や空気清浄 - 仕事ができる場所 - 罹患時に隔離できる部屋 - 作業しやすいデスク環境 - 良好なICT環境 - 事故や怪我などが心配 - キッチンなど危険な場面に入ってきてしまう - キッチンで行われている事が見えづらい - 家事などが協力しづらい	ダイニングなど - 様々なモノを上げられる充分な広さのある場所 - 親の気配を感じやすい距離感 - 会話の題材が生まれやすい場や動線 ダイニングやキッチンなど - 子どもの作業内容がわかる親の視線が届きやすい配置 - 子どもの興味を引く手元が見えるキッチン - 多方向から共同で作業できるキッチン - 危険な作業のときに子どもに入れないようにするゲート 個室空間など - 邪魔なモノを単独作業できる空間 - 子どもが遊んでいる声など、生活音を遮断できる可変性（気配、音） ファニチャー - 親がセキュリティ上安全に管理できる収納
動感獲得、劣等感克服 好きな事を見つけ喜びを感じ始める時期 	興味から意欲を引き出す - 知的好奇心 - 論理的思考力 - 語彙力 - 感受性	直接的（近い） ←→ 間接的（遠い） 一緒に遊ぶ きちんと会話 見守る姿勢を見せる	- 通学による生活の変化 - 生活・学習の自立支援 - 家庭内学習時間の増加 - ICTリテラシーの差 - レジャー等体験学習の増加 - 子どもの権利の調整（小遣い等） - 夫婦の教育観の相違等による磨き合せ - 子どもの学校から社会への広がり - 働き方、キャリアの再構築	【共通課題】 - 帰宅時に除菌・手洗いしやすい間取り - 空気の衛生を保つ換気や空気清浄 - 仕事ができる場所 - 罹患時に隔離できる部屋 - 作業しやすいデスク環境 - 良好なICT環境 - ゲームや遊びの音のうるさい - ニュースや新聞など共有の話題が広がらない - 子どもが親に「できた」と見せに来づらい	ダイニングやリビングなど - 家族が共同作業できる空間、家具 - 家族共通で使える道具を共有できる棚、収納 ダイニングやキッチン、リビングなど - 親子がいつでも会話できる距離感 - 余計なものが映って子どもの気が散らない視界が確保できる場所 - すぐに親に確認できるような子どもの居場所 個室空間など - 親が単独作業できる空間 - 遮断できる可変性（気配、音） ファニチャー - 家族それぞれが、セキュリティ上安全に管理できる収納
他者からの刺激、子どもへの信頼 自分の興味関心を形にしていく時期 	対話から思考力をつける - 抽象的思考力 - 社会性 - 集中力 - 向上心	直接的（近い） ←→ 間接的（遠い） 一緒に行う 経験に基づいたアドバイス 子どものシグナルを見逃さない 信頼を示す	- 家事総量増加による負担増 - 生活時間のずれ違い - 経済的負担の増加 - 第二反抗期との向き合い方	【共通課題】 - 帰宅時に除菌・手洗いしやすい間取り - 空気の衛生を保つ換気や空気清浄 - 仕事ができる場所 - 罹患時に隔離できる部屋 - 作業しやすいデスク環境 - 良好なICT環境 - それぞれが勉強や仕事をする邪魔になる - それぞれが一緒にいると居心地が悪い - 家族一緒にいる時間が減る（共有情報が減る）	リビングやダイニングなど - 家族や友人知人などが共同作業できる空間、家具 - 家族共通で使える道具を共有できる棚、収納 - 一緒にいてもストレスがない複数の居場所がある空間 個室空間など - 親も子どもも一定時間集中して単独作業できる空間 - 家族それぞれが使用時間決めて使える籠もり空間 - オンラインに邪魔になる音を遮断できる可変性（気配、音） ファニチャー - 本や物を飾れる家具、設え - 家族それぞれが、セキュリティ上安全に管理できる収納 - パーソナルスペースの家具の充実 - グリーンなどインテリアの充実